

電気通信工事業における建築物、構築物を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
2	23~24	電線共同溝設置現場において、掘削作業（深さ1.4m）完了後、配管準備中地山の変化を確認した為、トレンチパイル建て込みを開始した。トレンチパイルを地山に当たった瞬間に舗装片が左大腿部へ落下した。	34	—
2	22~23	高圧線の埋設工事中、転圧機（ランマー）の燃料がなくなり補給する為、約200m離れた場所に停めてあった軽トラックのライトを頼りに荷台の燃料缶（10?）を取りに行き、現場の灯りを目指して戻る途中ハンドホールの穴に気付かず顔面から深さ1mの穴に落ちた。尚、当日作業開始の時点では、ハンドホールの周りにはカラーコーンとバーを設置しており穴には転落防止の為コンパネを敷設していたが、落下時にはそれらが撤去されており周知されていなかった。暗闇で照明もなく全くハンドホールの穴には気付かなかった。	57	1~9
3	13~14	2階屋上で現場待機中に、被災者が3階ペントハウスに設置してある空中線（アンテナ）の角度を確認しようと後ろ向きに後退した際、パラペットに接触してバランスを崩し、2階屋上から地上1階に転落した。	20	1~9
4	10~11	当日朝から高エネルギー加速器研究機構作業現場において作業を開始し、午前中の休憩時に資材の在庫確認をするため、現場事務所の倉庫に移動し、在庫確認を終え倉庫から退出する際に足元を良く確認せず、段差のある出入口の引き戸に左足首を引っ掛け転倒した。	48	1~9
5	13~14	本社敷地内に設置してあるコンテナ出入り口にて現場工具等の整理及び準備中に扉が閉まりかけたため、慌てて右手で扉を押えつけたところ右手小指をぶつけた。	30	10~29

5	13～ 14	電気設備の配線路点検中に狭い場所を通り抜けようとした際に胸が押えつけられそうになり、通り抜けたところ胸に違和感と痛みを感じた。	33	～ 29	10
7	14～15	駐車場棟1階屋外電気室補修工事現場で低温卸売場の天井裏スペースで電気配線作業の指示確認中誤って天井点検口を踏み抜き1階フロアに転落してしまった。	41	～ 29	10
9	9～ 10	原っぱ（私有地）内の自営柱K-18-4～K-18-6間の、既設ケーブル撤去ケプラーロープ張りの作業中、自営柱K-18-6の柱上でケプラーロープまでの布設が完了。ケプラーロープを自営柱へ縛りつけようとした時、当該自営柱が、地際付近で折れて転倒した、作業員は胴網・安全帯を使用していたため自営柱とともに転倒し、右脚が自営柱の下敷きになり骨折した。	57	～ 29	10
10	14～ 15	電気工事で、屋外の電気工事引込ポール（鉄製高さ5m地下1m）の高さ1.8mに、はしごをかけて作業していた。ポールが古く根元が腐食しておりポールが根元から折れて倒れはじめたため、はしご6段目から飛び降りたところコンクリート地面に右足かかとを打った。安全靴は着用していた。	28	～ 29	10
11	14～ 15	停電し、電柱上部にある碍子を外す作業を行う為、昇柱している途中で、高さ7～8m位の高さに達して、作業を開始しようとした時、道路の法面に落下し腰を痛めた。安全帯は装着していたが、落下した際に外れたようである。	47	～ 29	10
11	23～ 24	現場である道路のケーブルを撤去作業中、撤去したケーブルを両手に持ってトラックに積む際に縁石に躓き転んでしまった。痛みはあったが、その日も仕事をし、何日か様子を見たが、痛みと腫れがひかず病院へ行った。	37	～ 9	1
12	14～15	自社倉庫で、中二階にある作業ロープを片付け中、誤って養生部分を踏み抜いて転落し（1.5m位）、一階床に置いてある電線ドラムの上に腰を打ち、腰を負傷した（ヘルメットあり）。	59	～ 9	1

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to：[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_11.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html)

